

第5回びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会 結果概要

日 時 平成24年7月23日(月) 13:20~14:40

場 所 滋賀県厚生会館別館4階大会議室

出席委員 大西委員 佐藤委員 多胡委員 田畑委員 塚口委員 東野委員
原山委員 村山委員 林沼草津市総合政策部副部長(林田委員代理)

議 事

(1) 最終取りまとめ(案)について

議事概要

1. 議事

(1) 中間取りまとめ(案)について

委員長：びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会は本日5回目であるが、今回で最終としたい。委員の皆さまのご意見、県民の皆さまのご意見を聞きながら、最終取りまとめ案が固まった。本日も皆さまの忌憚のない、積極的なご意見をお願いします。

委員長：少し、第4回目の委員会から時間が経っているのでこれまでの経緯を申し上げますと、第4回目の委員会を2月10日に開催し、その結果を踏まえ、3月に中間取りまとめを取りまとめている。その後、3月下旬から4月下旬にかけて、中間取りまとめに対する県民の皆さまからの意見を募集している。

本日は、まず県民の皆さんからどのような意見が提出されたのか、またそれを踏まえて最終の取りまとめ案をどのようにすればいいのか事務局から説明をお願いします。

(資料1-1、1-2、2-1、2-2について事務局より説明)

委員長：県民からいただいた意見は、ビジョンを実現するために参考となるものであるが、ビジョンそのものを大きく変更する必要はないとのことであった。

県民からいただいた意見の取扱い方、それを踏まえた最終案について意見があれば伺う。

委 員：県民からの意見の提出手法等はどうであったのか。また、地域をまわり意見を伺っていると聞いているがこういった形で聞いているのか。

事務局：資料2-4参考資料をご覧ください。P53が今回の意見募集の結果だが、インターネット等を通じて意見を募集した他、大津市、草津市、びわこ文化公園都市内の施設等を通じてやっている。意見はメールやファクシミリ等でいただいている。

また、地域団体へのヒアリング結果等はP51に掲載している。中間取りまとめの直前にヒアリングおよびアンケートを実施した。大津市、草津市の協力を得て、周辺の自治連合会の役員の方を中心に意見をいただいた。

P47にはびわこ文化公園都市にある25施設の方にヒアリングをさせていただいた結果を掲載している。

P 3 4には県政モニターに対するアンケート結果を乗せている。アンケートはびわこ文化公園都市周辺の方々だけではなく、全県を対象に行っている。

これらの意見は全て参考資料に掲載し、ビジョンと合わせて公表していきたいと考えている。

委員：県民の方からの意見はきれいに分類され整理されているが、地域との連携といったキーワードがいろんな所に入っている。例えば「地域住民の参画に関するもの」であったり、「施設の利活用に関するもの」、「施設整備に関するもの」といったところにそうしたニュアンスのものが入っている。

このビジョンには、地域が大きく3つの意味で使われている。一つは広い範囲の県民。もう一つは周辺地域住民といった狭い範囲もの。そして地域連携といった意味での地域。このビジョンの中には地域連携といった考え方は入っているが、言葉として明確にどこかに入っていると良い。

具体的に言うと、ビジョンのP 1 6「7.びわこ文化公園都市の将来像と方向性」に地域との連携という言葉が出てこない。また「3つの検討の視点」の「新しい価値の創造・発信の促進」にはこれまでの検討でもあったとおり、新しい公共の思いが込められていたはず。そこがうまく読み取れない。ここに地域との連携という一言があってもいいのではないか。

事務局：本日の委員会のご意見を踏まえ、見直していく。また、びわこ文化公園都市内の25の施設だけではなく、周辺の企業や里山なども含めての連携も視野に入れていきたい。

委員長：P 1 6「7.びわこ文化公園都市の将来像と方向性」の冒頭4行の中に地域との連携といった言葉を入れることとしてはどうか。

委員：5つの将来像における短期的、中長期的取組はまとまっているが、どういった具体の取組を柱にするのかといったことを、次のステップとしてまとめていかないといけないのではないか。

事務局：ビジョンは、それぞれの方向性を書き込んでいるため、今後の事業展開を含め全方向的なものに記載になっている。そうした中で、短期的な取組については、3から5年のスパンでなんとか見える化をしていきたい。中長期的なものについては、すぐ目に見えるような形にはならない。また短期的な取組の中でも、当委員会の意見等を踏まえ、特に重点的に取組が求められる項目を「：特に重点的に取組が求められる項目」として整理している。

まずは、P 2 2にあるように、（仮称）連絡協議会を立ち上げていきたいと考えている。この中で具体的に何から取り組むのかといったことも検討していく。また25施設だけでは解決しないものや、逆に25施設だと機動性に欠ける部分もあるため、関係するテーマに合わせた施設や機関、地域等で個別に取り組んでいく。これらの進行管理は、県と大津市、草津市による（仮称）推進調整会議が進めていければと考えている。そうした中でビジョンの実現状況の見える化を進めていきたい。

委員：ビジョンを策定し、10年後にどれぐらいの成果が上がっているのかといった評価が大

事ではないか。そうしたことをチェック、評価する機能を設けられないか。

委員長：先ほどの事務局の説明にもあったかと思うが、再度説明願う。

事務局：評価委員会を立ち上げるというやり方もあるだろうが、25施設が入った（仮称）連絡協議会にそうした進捗状況を適宜、少なくとも毎年報告し、そうした中で評価していただく方が良いのではないかと考えている。そこでお互いの機関の情報共有もできる。事業は行政だけではなく、それぞれの施設でもやられているので、そうした意味でも25施設の入った（仮称）連絡協議会で評価してはどうかと考えている。

委員：10年後に評価をした場合、ここに集まっている委員はほとんどその場にはいない。第三者的に評価できる場所があればよい。

委員長：1年、2年だけでなく、もう少し長いスパンで進捗管理ができる組織があればよい。こうしたビジョンは作って終わりではなく、如何に実現していくか。100%は無理でもどの程度進捗しているのかがわかる、評価できる仕組みをつくる必要がある。

委員：今の発言を受け、P25「9. 将来像の実現に向けて」の中で、ビジョンの実現状況を把握し、検証する旨表記してはどうか。

事務局：取組の公表も含めて記載する。

事務局：この地域は土地利用もまだ転換されるところもあり、今後動きながら決まっていくこともある。委員がおっしゃるように10年経てば変わることもあるため、今のビジョンでは書ききれないところもあるが、その段階でもう一度考えることはあり得る。

委員：ビジョン実現の期間は明確に記載されているのか。

事務局：県の基本構想に合わせ、2030年を前提に委員会で議論してきたが、明確な記載はしていないので、わかりやすいように書き込む。

委員長：ここで、ここまでの議論のまとめをする。

まず、P16「7. びわこ文化公園都市の将来像と方向性」の冒頭において地域との連携という表現を加える。

今後のビジョンを実現するための方策に関わるものとして、ビジョンは幅広く記載されているが、今後具体的にどのように施策を推進していくについては、それなりの仕組みが必要であるとのことであった。具体的に施策を推進するための協議会をいくつか作り、方向性を見失わないようにやっていくということ。将来像のこういったところに重点を置くのかということもそこで議論していく。各施策の進捗管理をする役割も必要とのことであった。P25「9. 将来像の実現に向けて」において、進捗管理するための組織の役割、必要性など

を書き込む。

大きな所はこの二点だが、加えて、この将来ビジョンが目指す目標年度を書き込む。

事務局：P16「7.びわこ文化公園都市の将来像と方向性」に、「2030年に向けて」ということを追記する。

委員：感想を述べる。大津市において文化ゾーンは、瀬田、上田上、田上を含めて、地域の生活や文化、産業など非常に関わりの深いところであり、びわこ文化公園都市将来ビジョンに対する期待は大きい。特に地域の皆さんが、歴史、文化、山との関わりの歴史の中で、街が発展してきており、中核になる場所という期待もある。また龍谷大学の今後の展開も非常に期待している。田上、上田上ゾーンとの関わりもますます深まってくる。地域の人がこのエリアで連携をしていきたいというポテンシャルは非常に高いと思っている。そうした意味で地域連携の仕組みがこれをもとに作られ、一つずつ、実のある事業が前に進むということにつながるビジョンとして、市としてもできるだけ参画していきたい。

委員長：他に感想があれば。

委員：びわこ文化公園都市のようなところは、外国も含めいろいろあると思う。そうしたところとの交流についてはビジョンにはない。大きな視点でびわこ文化公園都市を見るのも大事なのではないか。

事務局：例えば、つくば研究学園都市は、つくば新線が秋葉原からできた際に、都市再生機構が沿線の開発を含めて、つくばスタイルというものをキャッチフレーズに発信するようになった。ここ5、6年の話。

びわこ文化公園都市でも何かテーマに沿って、プロジェクトが動き出せばそれに関係して交流できるものが出てくるかもしれない。

委員：個別具体でなくとも、漠然と他の学研都市と交流するといったことをビジョンにかけないか。

委員長：学研都市もさまざまである。将来像や規模などを充分考えて、実際に役立つような連携を作り上げていくことは重要だが、まずはびわこ文化公園都市において、こうしたことをやるという情報発信をきちんとしていくことも必要かと思う。相手に認識してもらうことも必要。今後は、必要に応じて他地域との連携も必要かと思う。

委員：びわこ文化公園都市は、南草津地域になるが、このあたりのハード整備はひととおり終了したため、草津未来研究所では、立命館大学と草津商工会議所と三者で南草津まちづくりの検討をしている。立命館大学を含めたびわこ文化公園都市は重要な地域であるため、このビジョンを参考にさせていただきたい。

事務局：南草津駅や、あるいは新駅と、企業や大学を含めたびわこ文化公園都市を結ぶ新交通の戦略が、これから具体化されていくと期待している。

委員：具体的なことはまだ考えていない。南草津駅周辺は区画整理も終わり、新快速もとまるということで、ハード整備が終わったため、今後都市の機能をどう高めていくかという方向付けを考えていきたいと思っている。

委員：ビジョンは考え方を示すもので、この委員会はそれでいいが、県民からの意見は地域連携など具体的なものを求める声が多かった。（仮称）施設連携協議会の中で具体的にどう動いていけばいいのか考えさせられる。

事務局：（仮称）施設連携協議会の立ち上げは県でやっていきたいと考えている。具体の取組はテーマごとによって変わってくると思っている。例えば福祉関係施設でいえば、会議室を使えないかといった県民の意見もあった。そういう意味では現実的に何ができるのか。施設からすれば単体の施設としては駐車場が足りないといったこともある。近隣の施設で融通し合うということもできる。個々の施設を見ればいくつかのパターンで連携されているところもあり、今後既存の連携組織も含めやっていければと考えている。

委員：先日、草津東高校の体育科の生徒が立命館大学に来て、スポーツ健康科学部で様々な測定をした。こうした取組は今年が初めて。草津東高校は、守山や京都の附属高校よりも近く、場所の近さにすごい意味があると感じている。探せば色々出てくると思う。そうした意味でお互いを知るためには施設間の協議会はいいいのではないか。

事務局：従来の委員会でも言われていることを、25施設、協議会に投げかけて、具体的にテーマごとに動いていただこうと思っている。

その時には、中核となる人、プロジェクトでいう主査となる人は、行政ではなく、連携協議会の25施設の中から見つけていければと考えている。

委員長：ビジョン実現のための協議会の中において、この地域にある様々な組織の皆さまが主体的に参加できるようなプラットフォームを県がきちんと作り、その後は、各組織がそれぞれの施設を活発に運営していくという視点から取り組んでいただければと思う。

委員長：本日の議論を踏まえ、ビジョン最終取りまとめにあたっては3点の修正がある。最終取りまとめ案を事務局で作成していただき、8月中には報告書を知事に報告したいと考えている。修正後の最終案の確認は、委員長一任でよろしいか伺う。

（一同、異議なし）

委員長：それではそのようにさせていただく。もし何かお気づきの点があれば、7月中に事務局まで御連絡いただきたい。

委員：ビジョンについては、ゼロからのスタートでここまでできたことは感謝したい。ただ、委員会は5回の検討のみ。それで20年後のビジョンを全て語るのは無理がある。先ほど委員からも話があったように、他県の先行事例を見ているのかと言えばそうではないし、県民が求める優先順位もわからない状態。現時点では宿題として残っているということでもいいが、このビジョンは3年あるいは5年に1回ずつ見直すことを考えるべきではないか。

委員長：最近の計画、長期計画だと20年だが、20年後のビジョンを明確に描ける人は誰もいない。少なくとも、半分の10年で見直す、10年の計画なら5年で見直すといったことは当然のこと。計画を変更することに対して恥じ入ることは何もない。世の中が変われば計画は変更しなければならないもの。今後、社会が変われば躊躇なく見直すという姿勢は当然。いくら慎重に作っても計画には自己矛盾がある。計画は変わる運命を持っている。如何にして計画を見直していくかというシステムをきちんと作っておく。そこを決めておけば、次の世代がそれに乗っ取り、知恵を出せる。

事務局：ビジョンの「9. 将来像の実現に向けて」において、10年を目途に評価し、見直すということを明記したい。

委員長：これで最終取りまとめに近い形になった。完成したものは8月中を目途に知事に報告する。

(終了)